

令和 8 年 8 月月例・9 月定例記者会見

〔01_令和 8 年生駒市議会(第 6 回)定例会 提出案件〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000042/42449/0824-01.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明・挨拶】

【 質疑応答 】

記者 補正予算で豪雨被害に対する補修工事は、具体的にはどのような工事ですか。

市長 今回の豪雨により生駒山から多量に水が流れ、水路が入っている道路下の土砂が大きく削られ崩れている箇所や農地被害など、抜本的な工事が必要な個所があります。

記者 ゴミ袋の補正予算の 5,000 万円は、ゴミ袋の増産のためのものですか。

市長 店頭で買えない状況の予防と市のストックを増やすためゴミ袋を増産するものです。また、単価が上がっていますので 5,000 万円の予算となっています。

記者 水道料金の減免ですが、県内一律ですか。

市長 生駒市独自のものです。

記者 県内でまとめて一緒にやるということではなくて、生駒市が先行ですか。

市長 先行ではなく減免の実施を市町村ごとに選べるようになったということです。水道の広域化に伴い、自治体の独自施策で減免したい場合の対応が決まっていなかったので要望しておりました。当初は、広域水道に加入の全ての自治体の総意によっての実施となっておりましたが、市町村ごとの減免に対応できるようにシステム改修も含め、改定いただいたということになります。

記者 補正予算の約 7,033 万円から国庫補助の約 4,204 万円引いたものが、市の負担ですね。

市長 はい、そうです。

記者 減免は何月を想定されていますか。

財政課長 水道企業団では 12 月頃を想定されています。

記者 新しく市独自で雇用する教員の給与条例の制定の件ですが、目的と教員の配置など決まっていますか。

市長 生駒市の学校教育で力を入れている自由進度学習や探究的な学び、地域でのコミュニティスクールなども含めて、生駒市の教育大綱に基づいた先進的な取り組みをしっかりと現場で具体的に対応していただく教員に来ていただくということです。

教育政策室長 どの学校に配置するかは決まっていますが、特色のある学校作りを進めている学校のうちから配置先を選ぶことになります。面接し、その方の適性と学校の状況等調整しながら、配置を決めていきます。

記者 採用予定人数と時期はどうですか。

教育政策室長 基本的には 3 人程度、来年 4 月からを想定しています。

記者 雇用するのは小学校、中学校の両方ですか。また、各先生が複数の学校を担当することになるのですか。

教育政策室長 小学校、中学校の両方に配置予定です。小学校であれば担任を、中学校では担当教科を持っていただく予定で、採用された先生方は、複数ではなくひとつの学校で指導にあたっていただきます。

記者 先進的な教育とはどのようなものですか。

教育政策室長 第 3 次生駒市教育大綱で授業の在り方を変えていくことを謳っており、市内のいくつかの学校で自由進度学習という子どもたち主体の授業を取り入れています。

記者 自由進度学習とはどのようなものですか。

市長 例えばタブレットなどを使って、ドリルをどんどん進める子もいれば、逆にゆっくり進める子もいたり、個々

の子どもの進度に合わせた授業の進め方などを行うものです。

教育政策室長 あと生駒第二小学校では、小規模特認校として学年・年齢を超えて縦割りで学ぶことを重視しており、異年齢での学びを推進していただけるような先生を求めています。

記者 これから具体的な取り組みを決めていくということですか。

教育政策室長 今後、応募いただく先生方の適正を確認し、第 3 次生駒市教育大綱の実現をふまえ、取り組んでいただける先生方を 3 名程度採用するものです。

記者 現在、県内で先生をやっている人ではなく県外や外部から募集するのですか。

教育政策室長 県外や外部からの採用を想定しています。県外でご経験されている先生や、私立学校でご経験されている先生で、公立学校で挑戦したい方などが来ていただければと思います。

記者 年齢の制限はありますか。

教育政策室長 特に年齢の制限はありません。

記者 県内でもかなり珍しい事例ですか。

市長 県内にとどまらず、全国でも珍しい事例です。

〔02_「生駒市史」第 1 巻、好評につき増刷〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000042/42449/0824-02.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明】

【 質疑応答なし 】

〔03_「学校作業療法士」による巡回支援の実証を開始〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000042/42449/0824-03.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明】

【 質疑応答 】

記者 学校作業療法士の巡回支援は、第 3 次生駒市教育大綱での改革の一環でしょうか？

市長 広く言えばそうです。学校作業療法士が二つの学校に巡回支援して、一人ひとりの子どもたちの運動面や精神面に向き合っていただくことで、子どもたちの困っていることや落ち着きのなさなどを改善することの実証を目指しています。また、課題を抱える子どもたちに日々接している先生に対しても学校作業療法士が、専門的なアドバイスをを行うことでスキルアップを図り、多様な学びを実現する大切な取り組みとなります。

記者 来年度からの実施になりますか。

市長 この 9 月から、二つの学校で実証的に開始し、その効果も見ながら来年度以降、本格的に導入するのかを考えていきます。

記者 他市町村でも取り組んでおられるのでしょうか。

市長 飛騨市が一番進んでいるように聞いております。

記者 作業療法士を入れている学校は、ほとんどないという理解でいいですか。

市長 全国でも珍しいと思います。

記者 どのような形で作業療法士を学校に派遣されるのですか。

市長 奈良県作業療法士会から推薦された方に来ていただくことになります。

学校支援課長 子どもに関わる作業療法士は、すごく少ないことから、奈良県作業療法士会から推薦していただいた福祉事業所から経験豊富な作業療法士が、学校を巡回していただくということです。

記者 従来の作業療法士のイメージと違いますね。

学校支援課長 我々が認識している病院等でのリハビリではなく、例えば学校ですずっと座ってられないとか運筆が苦手な子どもたちに対して、一緒に作業しながら支援をしていただくものです。また、学校の先生にも子どもたちにどのような支援を行ったらいいのかをアドバイスをしていただきます。

記者 一般的な作業療法士と学校作業療法士とは同じなのですか。

市長 課長からもありましたように、子どもを専門とする作業療法士は、高齢者や病気ケガの方のリハビリを対象とする作業療法士に比べ、かなり人数が少ない状況です。一般的には認識が低いかもしれませんが、学校作業療法士は、姿勢の保持や読み書き道具の使い方、地域や学校などの社会とのコミュニケーションの取り方等に困難を抱える子どもたちを支援し、アドバイスできる作業療法士です。

記者 隔週で学校に行かれますが、学校ではどのように活動されるのでしょうか。

学校支援課長 実際に活動していただく作業療法士に 7 月に来ていただき学校側と打ち合わせをしました。その中で、まず一つは学校からクラスや児童の様子を見て欲しいという要望がありましたので、そこからスタートしていき、学校のニーズの把握や子どもたちの様子を見ながら具体的に進めていきたいと考えています。

記者 学校側から具体的に働きかけるわけですね。

学校支援課長 教室で待機しているというよりは、支援が届きにくい通常学級のグレーゾーンの子どもたちに学校作業療法士から働きかけに行っていただくことを考えています。

記者 学校作業療法士という資格はありますか。

市長 学校作業療法士という資格はございません。作業療法士の資格をお持ちの方で、子どもたちを中心とした作業療法を行っている方を学校作業療法士という言い方をしています。

〔04_「いこま協創アンバサダー」第 1 号に土井成樹さんを任命〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/00000042/42449/0824-04.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明】

【 質疑応答 】

記者 協創アンバサダー第 1 号ということですが、今後、何人ぐらいを想定されていますか。

市長 人数は決めていませんが、SNS を含めた発信力が強い方で、それぞれの分野で実績あり、一緒に市民との事業に取り組める方を年に 1 人とか 2 人程度と考えています。

記者 協創アンバサダー以外の大使などは任命されているのですか。

市長 漫才師の大助花子さんを生駒市ふるさと広報大使に任命させていただいております。

記者 協創アンバサダーを決めるのは市長ですか。

市長 生駒市行政経営会議という部長と理事者の会議で決めました。各部長には生駒市出身や生駒市との関係がある方で、SNS の発信力や市民のニーズに合うような事業ができそうな方がおられれば推薦してもらうよう話しています。

記者 各部から人選された候補者を合議制で決めるということですね。

市長 そうです。

記者 わかりました。ありがとうございます。